

個々の問題の出題の意図及びその正答率

理科 小学校 第6学年

領域	問題番号			出題の意図	評価の観点			正答率
	大問	小問	通番		科学的な思考	観察・実験の技能・表現の	知識・理解	
生物とその環境	A	①	1	1	二酸化炭素を調べるために石灰水を使うことができることがわかっている。			89.1
			2	2	はく空気に含まれる二酸化炭素が石灰水と反応し、石灰水が白くにごることがわかっている。			85.1
			3	3	すう空気とはき出す空気に含まれる酸素の割合の違いを、気体検知管から読み取ることができる。			70.5
			4	4	実験1の結果から、はき出す空気の特徴をすう空気との違いを考えることができる。			33.2
			5	5	すった空気が肺までとどくことがわかっている。			82.3
	②	1	6	だ液の消化を調べるために、温度の条件を考えて実験を計画することができる。			79.0	
		2	7	でんぷんがあるかないかを、ヨウ素液で確かめるとどのような結果が得られるかがわかっている。			61.9	
		3	8	実験結果をまとめて、だ液のはたらきについて考えることができる。			86.0	
		4	9	「消化」ということばの意味がわかっている。			60.5	
	③	1	10	日光とでんぷんができることとの関係を調べるために、条件を統一して実験を計画することができる。			12.3	
		2	11	デンプンができていない葉、できていない葉について、ヨウ素液につけたときの結果がわかっている。			85.6	
		3	12	葉に日光を当てたときと当てないときの実験結果から、でんぷんができるための条件を考えることができる。			68.7	
4		13	日光に当たらずでんぷんができなかった葉にも、日光を当てればでんぷんができることや、日光に当たってでんぷんができた葉も日に当たらなくなるとでんぷんがなくなるなど、日光とでんぷんの関係を結び付けて考えることができる。			73.6		
物質とエネルギー	B	④	1	14	水溶液のにおいのかぎ方が身に付いている。			94.9
			2	15	リトマス紙の反応と酸性・アルカリ性の関係がわかっている。			76.7
			3	16	溶液の性質を正しく調べるときの、ガラス棒を新しい水で洗ってから使う操作が身に付いている。			84.0
			4	17	アンモニア水の性質がわかっている。			59.8
			5	18	実験の結果から、何が溶けている水溶液かを考えることができる。			55.8
	⑤	1	19	ろうそくが燃え続ける理由を調べるために、条件を統一して実験を計画することができる。			30.6	
		2	20	ろうそくが燃え続けるわけを、びんに入出入りする空気の動きと関係付けて考えることができる。			74.3	
		3	21	実験からわかったろうそくが燃え続ける理由をもとに、ランプのつくりを説明することができる。			71.3	
		4	22	水上置換の方法が身に付いており、それを図に表すことができる。			81.3	
地球と宇宙	C	⑥	1	23	それぞれの層にふくまれる石などの特徴で、層が同じかを判断できることがわかっている。			94.8
			2	24	崖の地層やボーリング試料の観察をもとに、地層の広がりについて考えることができる。			72.5
			3	25	火山から出てくる石や火山の働きでできる石の特徴を正しくとらえ、地層のでき方と関係付けて考えることができる。			88.0